

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

所在	世田谷区給田 2-13-6
園名	世田谷区立給田保育園

1. 活動のテーマ

<テーマ>

面白そう！！やってみたいな！ ～見つけて試して広がる好奇心～

<テーマの設定理由>

給田保育園は園庭が広く自然環境に恵まれ、その良さを活かし遊べる自然を取り入れようと数年前にビオトープを作り、周辺には植物を植えていった。
ビオトープ周辺では花を摘んで色水遊びをしたり、砂遊びやおままごとに草や枝を取り入れて遊ぶ姿が見られたりしていた。自然があると虫が増え、子どもたちは「この虫なんだろう」「触覚がある」「カメムシなのに臭くない」と感じたことや気が付いたことを言葉にし、興味をもって観察することで、知的好奇心が育まれてきている。
新たに土を購入し遊びの中に取り入れていきたい。

2. 活動スケジュール

- 夏 4種類の土を紹介し、子どもたちが自由に遊べるように設定する。
様々な道具を準備し、好きな時に試せる環境を作った。(バケツ、すり鉢)
- 秋 新しい素材として土粘土を用意する。
個人バットを準備すると立体の制作もそのまま飾っておくことができた。
ラック、牛乳ケース、名札を準備して団子がとっておけるようにする。
- 冬 団子づくりに興味が出てきて水を加減したり大きさを考えたりし、何度も失敗しながらも諦めず繰り返し楽しんでいた。
興味をもったものが調べられるようなスペースと道具を設置
土の違いを感じてもらうために鹿沼土に触れる体験コーナー棚を作った。
- 春 団子作りは作りやすい土に人気が集まってくる。

★活動の様子や子どもの発見などドキュメンテーションで保護者に伝えていった。また保護者会では実際に何種類かの土に触れてもらった。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

自由に使える水道や、外用の机と椅子を設置。

土・種・樹木などの自然物や、様々な容器・道具を揃えた。

知的好奇心に働きかけるような図鑑などの本や、知りたい・見てみたいという気持ちを深める虫眼鏡・顕微鏡を準備。

ラック、牛乳ケース、名札はお団子を継続して楽しめるようとおけるよう準備。

4. 探究活動の実践

＜活動内容＞ 五感が刺激される

① 土って色々あるんだ ～さらっとして気持ちがいい～

② 「固い」レモンを切ってみよう ～いい香りがする～

＜活動中の子どもの姿や声、保育士との関り＞

事例① 土遊び ～鹿沼土に触れてみた～



「これ土なの?」「コンフレークみたい」と興味をもって向かってきて、手に取って感触を確かめています。

網やすり鉢をおいておくと「こすったらサラサラになった」と固形からサラサラの砂状に変化したことに不思議さそうにしていました。「フワフワして気持ちがいい!」と喜んでいる友達の様子を見て、興味が出てきた子がいました。実際に触てみると「サラッとしていて気持ちがよかった」「どろんこ苦手だけどこれは触れる!」と土の感触の気持ちよさを感じられたようです。



事例②レモンが黄色くなった!～足湯してみよう～

ある強風の日、レモンの鉢が倒れてレモンが落ちていました。早速子どもが発見!「握ってみると、硬い」「中はどうなっているんだろう」と興味湧いたようです。不思議に思った時がチャンスと思い、切ってみることにしました。「うわー!レモン汁が飛んできた」「いい香り～」と実際に試して、その現象や感触を楽しんでいました。

あっという間に周囲はレモンの香りに包まれています。

絞ってレモン汁を抽出し足湯に入れてみんなで香りを十分楽しむと「またやりたい」「レモンの水やり頑張る」と次の活動意欲に繋がっているようです。

五感が刺激され感性が豊かになる体験を繰り返し楽しんでいます。

5. 振り返り

・＜振り返りによって得た先生の気づき＞

- ① ・興味が出てきた土を、子どもたちが見える場所、棚を作ってバケツなどに入れて土紹介&体験コーナーをつくった。実際に触れる姿が見られて興味が広がっていくと感じた。
 - ・多くの土をいっぺんに出したことで土が混ざり合ってしまう、固まると手が付けられなくなり放置してしまう様子が見られた。
 - ・環境 MAP を用いて子どもの遊びがどこに向いているのかを整理して、子どもの興味について職員間でも話し合いを重ねてきた。その様子にあった道具を準備していくようにした。
 - ・触れてみてどんなことができるのかな、こんな遊び方があるんだと他の自然物を取り入れながら遊びが発展するとより盛り上がっていくと感じている。
- ② ・レモンが色付くと「色が緑から黄色に変わった」と生長を観察し楽しんでいた。実ったレモンが落ちた時「思ったよりカチカチしている」「中はどうなっているのかな」と興味津々であった。
 - ・図鑑を用意したことで興味を持ったことを調べてみようとしていた。環境を整えていくことで興味の広がりにつながっている。
 - ・日々の水やりや草木のお世話を楽しみながら次の活動を楽しみにしている様子。自分の考えていることを言葉で伝え友達や大人にこうしたいと言い合える時間的、気持ちにゆとりをもった関りを大切にしていく。
 - ・異年齢で過ごす中で自然と刺激を受け合い、学びを広げていきたい。
 - ・保護者会では日々の取り組みや子どもが夢中になっている姿を体験型やクイズ、掲示などして参加してもらった。子どもと保護者、保育士で共通のことで対話することが増えている。子どもは大人に共感してもらったり認めてもらったりすると嬉しく、より意欲的に活動している。